

豬口氏 寄贈四書

次室士官心得

練習艦隊

## 次室士官心得

### 第一 艦内生活一般心得

- 一、次室士官ハ一艦軍規風紀ノ根元士氣、元氣ノ源泉タルコトヲ自覺シ青年ノ特徴元氣ト熱、純心サヲ忘ルベカラズ
- 二、士官トシテノ品位ヲ常ニ保チ高潔ナレ自己ノ修養ハ勿論嚴正ナル態度動作ニ心懸ケ巧利打算ヲ脱却シテ清廉潔白ナル氣品ヲ養フ事ハ武人ノ最モ大切ナル修養ナリ
- 三、宏量大度精神爽快ナルベシ狹量ハ軍隊ノ一致ヲ破リ陰鬱ハ士氣ヲ沮喪セシム急ガシイ艦務ノ中ニ延ビ延ビシタ氣分ヲ決シテ忘レルナ細心ナルハ勿論必要ナルモコセコセスル事ハ禁物ナリ
- 四、禮儀正シク敬禮ハ嚴格ニセヨ  
次室士官ハ「自分ハ海軍ノ最下位デ何モ知ラヌノデアアル」ト心得、讓ル心懸ケガ大切ダ親シキ中ニモ禮儀ヲ守リ上ノ人ノ顔ヲ立テヨ良カレ惡シカレ兎ニ角「ケプガン」ヲ立テヨ
- 五、旺盛ナル責任觀念ノ中ニ常ニ生キヨ是ハ士官トシテノ最大要素ノ一ツダ命令ヲ下シ若クハ之ヲ傳達スル場合ニハ必ず其ノ遂行ヲ見届ケ爰ニ始メテ其ノ責任ヲ果シタルモノト心得フベシ

六、犠牲的精神ヲ發揮セヨ大ニ椽ノ下ノ力持トナレ

七、次室士官時代ハ是カラガ本當ノ勉強時代一人前ニナリ吾事ナレリト思フハ大ノ間違ナリ

公私ヲ誤リタル糞勉強ハ吾等ノ欲セザル處ナレドモ學術方面ニ技術方面ニ修得シナケレバナラヌ處多シ急ガシク艦務ニ追ハレテ是ヲ蔑ニスル時ハ悔ヲ來ス時アリ急ガシイ間ニコソ緊張裏ニ修業ハ出來ルモノナリ寸暇ノ利用ニ努ムベシ

常ニ研究問題ヲ持テ

平素ニ於テ常ニ一個ノ研究問題ヲ自分ニテ定メ是ニ對シ成果ノ捕捉ニ努メ一纏トナリタル處ニテ是ヲ記シ置キ一ツ一ツ種々ノ問題ニ對シテ此クノ如クシ置キ后トナリテ再ビ是ニツキテ研究シ氣付キタル事ヲ追加訂正シ保存シ置ク習慣ヲ作レバ物事ニ對スル思考力ノ養成トナルノミナラズ思ハザル參考資料ヲ作り得ルモノナリ

八、少シ艦務ニ習熟シ己ガ力量ニ自信ヲ持ツ頃トナルト先輩ノ思慮圓熟ナルガ却テ愚ト見ユル時來ルコトアルベシ是即慢心ノ危機ニ臨ミタルナリ此慢心ヲ斷絶セズ增長ニ任シ人ヲ侮リ自ラ輕ンズル時ハ技術學藝共ニ退歩シ終ニハ陋劣ノ小人タルニ終ルベシ

九、オズオズシテ居テハ何モ出來ヌ圖々シイノモ不可ナルモサリトテオズオズスルノハ尙見苦シイ信ズル處ヲハキハキ行ツテ行クノハ我々ニ取り最モ必要デアル

一〇、何事ニモ骨惜ミヲシテハナラナイ乗艦當時ハ左程デモナイガ少シ馴レテ來ルト兎角骨惜ミヲスル様ニナル當直ニモ分隊事務ニモ骨惜シミヲシテハナラヌ如何ナル時デモ進ンデヤル心懸ガ必要ダ身體ヲ汚スノヲ忌避スル様デハモウオシマイデアル

一一、青年士官ハバネ仕掛ノ様ニ働カナクテハイケナイ上官ニ呼バレタ時直グ駆足デ近ヅキ敬禮、命ヲ受ケ終ラバ一禮シ直ニ其ノ實行ニ着手スル如クアル可シ

一二、上官ノ命ハ氣持ヨク笑顔ヲ以テ受ケ即刻實行セヨ如何ナル困難ガアラウト折角ノ上陸ガ出來ナカロウト命ヲ果シ「ヤ御苦勞」ト言ハレタ時ノ愉快サハ何トモ言ヘヌ

一三、不關旗ヲ揚ゲルナ一生懸命ニヤツタコトニ就イテ手酷シク叱ラレタリ平常カラワダカマリガアツタリシテ不關旗ヲ揚ゲルト言フ様ナコトガ間々アリ勝ダガ之ハ愼ムベキコトダ自惚レガ余リ強過ギルカラデアル不平ヲ言フ前ニ己ヲ省ミヨ我慢心増長ノ鼻ヲ挫ケ叱ラレル中ガ花ダ叱ツテ下サル人モナクナツタラモウ見放サレタノダ叱ラレタナラ無條件ニ有難イト思ツテ間違ハナイドウデモ良イト思フナラ誰ガ余計ナ憎マレ口ヲ叩カンヤデアアル

意見ガアツタラ蔭デ「ブツ／＼」言ハズニ順序ヲ經テ意見具申ヲナセ之ガ用ヒラル、ト否トハ別問題、用ヒラレナクトモ不平ヲ言ハズ命令ニハ絶對服従スベキハ言フ迄モナシ

一四、晝間ハ諸作業ノ監督巡視、事務ハ夜間ニ行フ位ニスベシ事務ノ急ガシイ時デモ午前午後必ず一回ハ受

持ノ部ハ巡視スベシ

四

一五、「事件即決」ノ「モットー」ヲ以テ物事ノ處理ニ心懸クベシ「明日ヤラウ」ト思フテキルト結局何モヤ

ラズニ澤山ノ仕事ヲ殘シ仕事ニ追ハレル様ニナル要スルニ仕事ヲ「リード」セヨ

一六、成スベキ仕事ヲ澤山背負ヒナガラ忙シイ忙シイト言ハズ片附ケレバ案外容易ニ出來ルモノデア

一七、物事ハ入念ニヤレ委任サレタル仕事ヲ「ラフ」ニヤルノハ其ノ人ヲ侮辱スルモノデア

失ヒ人ガ仕事ヲ任セヌ様ニナル

又青年士官ノ仕事ハ六ヶ敷クテ出來ナイト云フ様ナモノハナイ努力シテヤレバ大抵ノコトハ出來

一八、「シーマンライク」ノ修養ヲ必要トス動作ハ「スマート」ナレ一分一秒ノ差ガ結果ニ大影響ヲ與フルコ

ト多シ

一九、海軍ハ頭ノ鋭敏ナ人ヲ要スルト共ニ忠實ニシテ努力精勵ノ人ヲ望ム一般海軍常識ニ通ズルコトガ肝要

カカル事ハ一朝一夕ニハ出來ヌ常々カラ心懸ケオレ

二〇、要領ガヨイト言フ言葉モヨク聞クガ餘リヨイ言葉デハナイ人前デ働キ蔭デスベル類ノ人ニ對スル尊稱

デア

二一、毎日各室ニ回覽スル書類（板挟ミ）ハ必ズ目ヲ通シ捺印セヨ行動作業ヤ當直ヤ人事ニ關スルモノデ直

接必要ナル事項ガ澤山アル必要ナコトハ手帖ニ拔書シテ置ケ之ヲヨク見テ居ラヌ爲ニ當直勤務ニ間誤ツ

イタリ大切ノ書類ノ提出期日ヲ誤ツタリスルコトガアル

二二、手帖「バイブ」ハ常ニ持ツテ居レ之ヲ自分ニ最モ便利ヨキ如ク工夫スルトヨイ

二三、上官ニ提出スル書類ハ必ず自分デ直接差出ス様ニスベシ上官ノ机ノ上ニ放置シ甚ダシイノハ從兵ヲシテ持參サセル様ナ不心得ノモノガ間々アル上官ハ之ニ對シテ質問サルルカモ知レズ訂正サルルカモ知レヌコノ點疎ニシテハナラナイ

二四、提出書類ハ早目ニ完成シ提出セヨ提出期日ギリギリ一バイ或ハ催促サル如キハ恥デアリ又間違ヲ生ズル基デアル艦長副長分隊長等ノ捺印ヲ乞フ時無斷デ捺印シテハイケナイ又捺印ヲ乞フ事項ニ就テ質問サレテモマゴツカヌ様準備調査シテ行クコトガ必要捺印ヲ乞フベキ場所ヲ聞イテ置クカ又ハ紙ヲ挟ムカシテ分リ易ク準備シ「艦長何々ニ御印ヲ戴キマス」ト申シ出デ若シ艦長カラ「捺シテ行ケ」ト言ハレタ時ハ自分デ捺シテ「御印載キマシタ」ト屈テ引下ル印箱ノ蓋ヲ開ケ放シニシテ出ル事ノナイ様ニ小サイコトダガ注意シナケレバナラヌ

二五、軍艦旗ノ揚グ降シニハ必ず上甲板ニ出デ拜セヨ

二六、何ニツケテモ分相應ト言フ事ヲ忘レルナ次室士官ハ次室士官トシテ候補生ハ候補生トシテ少尉、中尉各分アリ

二七、煙草盆ノ折椅子ニハ腰ヲ卸スナ次室士官ハ腰掛デアル

二八、煙草盆ノ所デ腰掛テキルトキ上官ガ來ラレタナラバ立テ敬禮セヨ

二九、機動艇ハ勿論汽車電車ノ中講話場ニ於テ上級者來タラバ直チニ立テ席ヲ讓レ知ラヌ顔シテキルノハ最モ不可

三〇、出入港ノ際ハ必ず受持ノ場所ニ居ル様ニセヨ出港用意ノ號音ニ驚イテ飛出ス様デハ心掛ガ惡イ

三一、諸整列ガ豫メ分ツテキル時次室士官ハ下士官兵ヨリ先ニ其ノ場所ニ在ル如クセヨ

三二、何カ變ツタ事ガ起ツタ時或ハ何トナク變ツタ事ガ起ツタラシイト思ハレル時ハ晝夜ヲ問ハズ第一番ニ飛出シテ見ヨ

三三、艦内デ種々ノ競技ガ行レタリ又ハ演藝會ナド催サレル際士官ハナルベク出テ見ルコト下士官兵ガ一生懸命ニヤツテキル時ニ士官ハ勝手ニ遊ンデ居ルト言フ様ナコトデハ面白クナイ

三四、短艇ニ乗ル時ハ上ノ人ヨリ遅レヌ様ニ早クカラ乗ツテ居ルコト若シ遅レテ乗ル様ナ場合ニハ「失禮致シマシタ」ト上ノ人ニ斷ラネバナラヌ自分ノ用意ガ遅レテ定期ヲ待タヌ如キハ以テノ外デアルカカル時ハ斷然ヤメテ次ヲ待ツベシ

短艇ヨリ上ル場合ニハ上長ヲ先ニスルコト言フマデモナシ同ジ次室士官内デモ先任者ヲ先ニセヨ

三五、舷門ハ一艦ノ玄關口ナリ其ノ出入ニ際シテハ服装ヲ整ヘ番兵ノ職權ヲ尊重セヨ雨天デナイ時雨衣ヤ引廻ラ着タマ、出入シタリ答禮ヲ缺グモノ往々アリ注意セヨ

第二 次室ノ生活ニ就キテ

- 一、我ヲ張ルナ自分ノ主張ガ間違ツテキルト氣付ケバ片意地ヲ張ラズアツサリト改メヨ我ヲ張ル人ガ一人デモオルト次室ノ空氣ハ破壊サレル
- 二、朝起キタナラバ直チニ挨拶セヨ之ガ室内ニ明キ空氣ヲ漂ハス第一誘因ダ
- 三、次室ニハ夫々特有ノ氣風ガアル良キモ惡キモアル惡イ點ノミ見テ憤慨シテノミキテハナラナイ神様ノ集リデナイカラ惡イ點モアルデアロウカカル時ハ確固タル信念ト決心ヲ以テ自己ヲ修メ自然ニ同僚ヲ善化セヨ
- 四、上下ノ區別ヲハツキリトセヨ親シキ仲ニモ禮儀ヲ守レ  
自分ノ事バカリ考エ他人ノ事ヲ省ミナイ様ナ精神ハ團體生活ニハ禁物、自分ノ仕事ヲヨクヤルト同時ニ他人ノ仕事ニモ理解ヲ持チ便宜ヲ與ヘヨ
- 五、同ジ「クラス」ノモノガ三人モ四人モ同ジ艦ニ乗組ンダナラバソノ中ノ先任者ヲ立テヨ「クラス」ノモノガ次室内デ黨ヲ作ルノハヨロシクナイ全員ノ和衷協力ハ最モ肝要ナリ利己主義ハ唾棄スベシ
- 六、健康ニハ特ニ留意シ若氣ニマカセテ不攝生ハ禁物健全ナル身體ナクテハ充分ナル御奉公出來ズ忠孝ノ道



ニ背ク

八

七、當直割ノ事デ文句ヲ言フナ定メラレタ通リドシドシヤレ病氣等デ困ツテキル人ノ爲ニハ進ンデ當直ヲ代ツテヤルベシ

八、食事ニ關シテ人ニ不愉快ナ感ジテ抱カシムル如キ言語ヲ慎メ例ヘバ人ガ黙ツテ食事ヲシテオル時、調理ガ不味イト言ツテ割烹ヲ呼付ケ責ルガ如キハ遠慮セヨ又會話ナドニハ精練サレタ話題ヲ選ベ

九、次室内ニ一人シカメ面ヲシテフレテキルモノガアルト次室全體ニ暗イ影ガ出來ル一人愉快ナ朗ラカナル人ガキルト次室内ガ明ルクナル

一〇、病氣ニ羅ツタ時ハスグ先任者ニ知ラセテ置ケ休業ニナツタラ先任者ニ届ケルト共ニ分隊長ニ届ケ副長ニ御願ヒシテ職務ニ關スルコトハ他ノ次室士官ニ頼ンデ置ケ

一一、次室内ノ如ク多數ノ人ガキル所デハドウシテモ亂雜ニナリ勝デアル重要ナ書類ガ見エナクナツタトカ帽子ガナイトカ言ツテワメキタテル様ナコトノナイヨウニ常ニ心掛ナケネバナラヌ自分ガヤリ放シニシテ從兵ヲ怒鳴ツタリ他人ニ不愉快ノ思ヲサセルコトハ慎ムベキデアル

一二、暑イ時公室内デ仕事ヲスルノニ上衣ヲトル位ハ差支ナイガシヤツマデ脱イデ裸ニナル如キハ甚ダシキ不作法デアル

一三、食事ノ時ハ必ず軍裝ヲ着スベシ事業服ノマ、食卓ニ付イテハナラヌ、急ガシイ時ニハ上衣ダケデモ軍

装ニ着換ヘテ食事ニ就クコトニナツテ居ル

一四、次室士官ハ忙ガシイノデ一律ニハ行カナイガ原則トシテハ一同ガ食卓ニ就イテ次室長ガ始メテ箸ヲトルベキモノデアル

食卓ニ着イテ従兵ガ自分ノトコロヘ先ニ給仕シテモ先任ノ人カラ給仕セシムル如ク命ズベキダ古參ノ人が待ツテキルノニ自分カラ初メルノハ禮儀デナイ

一五、入浴モ先任順ヲ守ルコト水泳トカ武技ナド行ツタ時ハ別ダガ其他ノ場合ハ遠慮スベキモノダ

一六、古參ノ人ガ「ソファー」ニ寝轉ンデ居ルノヲ見テ真似ヲシテハイケナイ休ム時デモ腰ヲ掛ケタママ居睡ヲスル位ノ程度ニスルガヨイ

一七、次室内ニ於ケル言語ニ於テモ氣品ヲ失フナ他ノ人ニ不快ヲ生ゼシムベキ行爲、風態ヲナサズ又下士官兵考課表等ニ關スルコトヲ輕々シク口ニスルナ不仕鱈ナコトモ人秘ニ屬スルコトモ従兵ヲ介シテ兵員室ニ傳リ勝ノモノデアル士官ノ威信モナニモアツタモノデナイ

一八、趣味トシテ碁ヤ將棋ハ惡クナイガ之ニ熱中スルト兎角尻ガ重クナリ易イ趣味ト公務ハハツキリ區別ヲツケテ決シテ公務ヲ疎ニスル様ナコトガアツテハナラヌ

一九、オ互ニ他ノ立場ヲ考ヘテヤレ自分ノ忙シイ最中ニ仕事ノナイ人が寢テ居ルノヲ見ルト非難シタイ様ナ感情ガ起ルモノダガ度量ヲ宏ク持ツテ夫々ノ人ノ立場ニ理解ト同情ヲ持ツコト肝要

二〇、從兵ハ從僕ニ非ズ當直其ノ他ノ教練作業ニモ出テ其ノ上ニ士官ノ食事ノ給仕ヤ身邊ノ世話マデスルノデアルカト言フコトヲヨク承知シテ居ラネバナラヌアマリ無理ナ用事ハ言付ケナイ様ニセヨ自分ノ身邊ノコトハナルベク自分デ處理セヨ從兵ガ手助ケヲシテ呉レタラ其分ダケ公務ニ精勵スベキデアル釣床ヲ釣ツテ呉レ食事ノ給仕ヲシテ呉レルヲ有難イト思フノハ東ノ間生徒候補生時代ノコトヲ忘レテシマツテ傲然ト從兵ヲ呼ンデ一寸新聞ヲ取ルニモ自分ノモノヲ探スノニモ之ヲ使フ如キハ我自ラノ品位ヲ下ゲテ行ク所以デアル又從兵ヲ「ボーイ」ト呼ブナ

二一、夜遅クマデ酒ヲ飲ンデ騒イダリ大聲デ從兵ヲ怒鳴ツタリスルコトハ慎メ

二二、課業時ノ外ニ必ず出テ行クベキモノニ銃器手入武器手入ニ受持短艇ノ揚ゲ卸シガアル

### 第三 轉勤ヨリ着任迄

一、轉勤命令ニ接シタナラバ成ル可ク早く赴任セヨ一日モ早く新勤務ニ就クコトガ肝要退艦シタナラバ直チ

ニ最短時間ヲ以テ赴任セヨ道草ヲ食フナ

二、「立ツ鳥ハ後ヲ濁サズ」仕事ハ全部片附ケテ置キ申繼ハ萬遺漏ナクヤレ申繼クベキ後任者ノ來ナイ時ハ明細ニ申繼ヲ記註シ置キ之ヲ確實ニ托シ置ケ

三、退艦ノ際ハ適宜ノ時司令官ニ伺候シ艦長、副長以下各室ヲ廻ハリ挨拶セヨ

四、新ニ着任スベキ艦ノ役務、所在、主要職員ノ名ハ前以テ心得置ケ

五、退艦着任ハ通常禮装ナリ

六、荷物ハ早メニ發送シ着任シテモ尙荷物が到着セヌト言フ様ナコトアルベカラズ手荷物トシテ送レバ早ク着ク

七、着任セバ直チニ荷物ノ整頓ヲナセ

八、着任スベキ艦ノ名ヲ記入シタ名刺ヲ豫メ數枚用意シ置キ着任豫定日時ヲ艦長ニ打電シテ置クガヨイ

、、乗組

海軍少尉 何

某

九、着任スベキ艦ノ所在ニ赴任シタルトキソノ艦ガ居ラヌトキ例ヘバ急ニ出動シタ後ニ赴任シタ様ナトキハ所在鎮守府、要港部等ニ出頭シテソノ指示ヲ受ケヨ更ニ又ソノ地ヨリ他ニ旅行スルヲ要スルトキハ證明書ヲ貰ツテ行ケ

一〇、着任シタナラバ當直將校ニ名刺ヲ差出シ「唯今着任致シマシタ」ト届ケルコト當(副)直將校ハ副長

ニ副長ハ艦長ノ所ニ案内シテ下サルノガ普通デアアル副長カラ艦長ノ所ヘツレテ行カレンレカラ次室長ガ案内シテ各室ニ挨拶ニ行ク艦ノ都合ノヨイ時乗員一同ニ對シテ副長カラ紹介サレル艦内配置ハ副長或ハ艦長カラ申渡サレル

一一

一一、各室ヲ一巡シタナラバ着物ヲ着換ヘテ一ワタリ艦内ヲ巡ツテ艦内ノ大體ヲ見ヨ

一二、配置ノ申繼ハ實地ニアタツテ納得ノ行ク如ク確實綿密ニ行ヘ一旦引繼イダ以上ハ全責任ハ自己ニ移ルノダ特ニ人事ノ取扱ハ引繼イダ當時ガ一番危険、一通リ當ツテ見ルコトガ肝要ダ就中叙勳ノ計算ハ成ルベク早クヤツテ置ケ

一三、着任シタ日ハ勿論ノコト一週間ハ毎夜巡檢ニ隨行スル如ク心得ヨ乗艦早々カラ「上陸御願致シマス」ナドハ以テノ外デアアル

一四、轉勤セバ成ル可ク早ク前艦ノ艦長、副長、機關長、分隊長及夫々各室ニ乗艦中ノ御厚意ヲ謝スル禮狀ヲ出ス事ヲ忘レテハナラヌ

#### 第四 乗艦後直チニナスベキ事項

一、直チニ部署内規ヲ借り受ケ熟讀シ速カニ艦内一般ニ通曉セヨ

- 二、 總員起床前ヨリ上甲板ニ出デ他ノ副直將校ノ艦務遂行振りヲ見學セヨ二、三日當直振りヲ注意シテ見テ居レバ其ノ艦ノ當直勤務ノ大要ハ分カル而シテ練習艦隊ニテ修得セル所ヲ基礎トシ其ノ艦ニ最適合セル當直ヲナスコトガ出來ル
- 三、 艦内旅行ハ成可ク速ニ寸暇ヲ利用シテ乘艦後直ニナセ
- 四、 乘艦後一月經過シタナラバ隅々迄知悉シ分隊員ハ勿論他分隊ト雖モ主ナル下士官ノ姓名ハ承知スル如ク心懸ケヨ

## 第五 上陸ニ就テ

- 一、 上陸ハ控ヘ目ニセヨ、吾人ガ艦内ニ在ルト言フコトガ職責ヲ盡スト言フコトノ大部分デアアル職務ヲ捨テ置イテ上陸スルコトハ以テノ外デアアル  
狀況ニヨリ一律ニハ言ヘヌガ分隊長ガ居ラレヌ時ハ分隊士ガ殘ル様ニセヨ
- 二、 上陸スルノガ恰モ權利デアアル様ニ「副長上陸シマス」ト言フベキデナイ「副長上陸ヲ御願ヒシマス」ト言ヘ
- 三、 若イ時ニハ上陸スルヨリモ艦内ノ方ガ面白イト言フ様ニナラナケレバイカヌ又上陸スル時ハ自分ノ仕事

ヲ終ツテサツバリトシタ氣分デノビノビト大ニ浩然ノ氣ヲ養ヘ

四、上陸ハ別科後ヨリ御願ヒシ最終定期ニテ歸艦スル様ニセヨ出港前夜ハ必ず艦内ニテ寢ル様ニセヨ

五、上陸スル場合ニハ副長己ノ從屬スル士官ノ許可ヲ得同室者ニ願ヒ當直將校ニ御願ヒシテ行クノガ慣例デア  
 アル此ノ場合「上陸ヲ御願ヒ致シマス」ト言フノガ普通同僚ニ對シテハ單ニ「願ヒマス」ト言フコノ「願  
 ヒマス」ト言フ言葉ハ簡ニシテ意味深長ナカナカ重寶ナモノデア  
 ル即チコノ場合ニハ上陸ヲ願フノト上  
 陸後ノ留守中ノコトヲ宜シク頼ムト言フ兩様ノ意味ヲ含ンデ居ル用意ノヨイ人ハ更ニ關係アル准士官或  
 ハ分隊先任下士官ニ知ラセテ出テ行ク歸艦シタナラバ出ル時ト同様ニ届ケレバヨイ但シ夜遅ク歸艦シテ  
 上官ノ寢テシマツタ後ハコノ限リデナイ

士官室ニアル札ヲ裏返ス様ニナツテ居ル艦デハ必ず自分デ之ヲ返スコトヲ忘レヌ如ク注意セヨ

六、病氣等デ休ンデ居タ時癒ツタカラトテ直グ上陸スル如キハ分別ガ足ラヌ休ンダ後ナラ仕事モ溜ツテ居ラ

ウ遠慮ト言フ事ガ大切ダ

七、休暇カラ歸ツタ時歸艦ノ旨ヲ届ケタナラ第一ニ留守中ノ自分ノ仕事及艦内ノ狀況ニ一通リ目ヲ通セ着物  
 ヲ着換ヘテ受持ノ場所ヲ廻ツテ見テ不在中ノ書類ヲ一通リ目ヲ通ス心掛ガ必要デア  
 ル

八、休暇ヲ載ク時其ノ前後ニ日曜又ハ公暇日ヲツケテ規定時日以上ニ休暇スルト言フガ如キハ最モ青年士官  
 ラシクナイ

九、職務ノ前ニハ上陸モ休暇モナイト言フノガ士官タル態度デアル

轉勤シタ場合前所轄カラ休暇ノ移牒ガアル事ガアルケレドモ新所轄ノ職務ノ關係デハ載ケナイ事ガ多イ  
副長カラ移牒休暇デ歸レト言ワルレバ載イテモヨイケレドモ自分カラ申出ル如キ事ハ決シテアツテハナ  
ラヌ

## 第六 部下指導ニ就テ

一、常ニ至誠ヲ基礎トシ熱ト意氣ヲ以テ國家保護ノ大任ヲ擔當スル干城ノ築造者タルコトヲ心懸ケヨ

「功ハ部下ニ譲リ部下ノ過ハ自ラ負フ」ハ西郷南洲翁ガ教ヘシ處ナリ「先憂後樂」トハ味フベキ言デア  
ツテ部下統御ノ機微ナル心理モカカル所ニアル統御者タル我々士官ハ常ニ此ノ心懸ガ必要デアル石炭積  
等苦シイ作業ノ時ニハ士官ハ最後ニ歸ル様努メ寒イ時ニ海水ヲ浴ビナガラ作業シタ者ニハ風呂ヤ衛生酒  
ノ世話迄シテヤレ

部下ニ努メテ接近シテ下情ニ通ゼヨ併シ部下ニ狃レシムルハ最モ不可注意スベキデアル

二、何事モ「シヨートサーキット」ヲ慎メ一時ハ便利ノ様ダガ非常ナル惡結果ヲ齎ラス例ヘバ分隊士ヲ抜キ  
ニシテ分隊長ガ直接先任下士官ニ命ジタトシタラ分隊士タル者如何ナル感ヲ生ズルカ是レハ一例ダガ必



ラズ順序ヲ經テ命ヲ受ケ又ハ下スト言フ事ガ必要ナリ

三、「卒先躬行」部下ヲ率ヒ次室士官ハ部下ノ模範タルコトガ必要ダ物事ヲナスニモ常ニ衆ニ先ジ難事ト見バ眞先ニ之ニ當リ決シテ人後ニオクレザル覺悟アルベシ又自分ガ出來ナイカラト言ツテ部下ニ強制シナイノハ良クナイ部下ノ機嫌ヲトルガ如キ絶對禁物デアル

四、兵員ノ惡キ所アラバ其場デ遠慮ナク叱正セヨ温情主義ハ絶對禁物然シ叱責スル時ハ場所ト相手トヲ見テナセ正直小心ノ若イ兵員ヲ嚴酷ナ言葉デ叱リツケルトカ又下士官ヲ兵員ノ前デ叱責スル等ハ百害アツテ一利ナシト知レ

五、世ノ中ハ何ンデモ「ワングランス」デ評價シテハナラヌ唯ニモ長所アリ短所アリ長所サエ見テキレバドシナ人デモ惡ク見エナイ又是レ丈ノ雅量ガ必要デアル

六、部下ヲ持ツテモソウデアル先ズ其ノ短所ヲ探スニ先ダチ長所ヲ見出スニ努メルコトガ肝要賞ヲ先ニシ罰ヲ後ニスルハ古來ノ名訓ナリ分隊事務ハ部下統御ノ根底デアル叙勳善行章等ハ特ニ慎重ニヤレ又一身上ノコト迄立入ツテ面倒ヲ見テヤル様ニ心懸ケヨ分隊員ノ入院患者ハ時々見舞ツテヤルト言フ親切ガ必要

第七 其ノ他一般

- 一、 服装ハ端正ナレ汚レ作業ヲ行フ場合ノ外ハ特ニ清潔端正ナルモノヲ用ヒヨ帽子ガマガツテ居タリ「カラ」ガ不揃ヒノ儘飛出シテキタリ靴下ガダラリト下ツテキタリ著シク皺ノ寄ツタ服ヲ着ケテキルト如何ニモダラシナク見エル其ノ人ノ人格ヲ疑ヒ度クナル
- 二、 靴下ヲツケズニ靴ヲ穿ヒタリ「ズボン」ノ後ノ「ビジヨウ」ガツケテナカツタリ或ハダラリトシテキタリ下着ヲツケズ素肌ニ夏服事業服ヲツケタリスルナ
- 三、 平服ヲ作ルノモ一概ニ非難スベキデナイガ必要ナル制服ガ充分ニ整ツテ居ラヌノニ平服等作ルノハ本末顛倒デアル制服ソノ他御奉公ニ必要ナル服装屬具等何一ツ缺グル所ナク揃ヘテ尙餘裕アラバ平服モ作ルト言フ程度ニセヨ、平服ヲ作ルナラバ落チツイテ上品ナ上等ノモノヲ選ベ無闇ニ派手ナ流行ノ尖端デモ行キサウナ服ヲ着テキル青年士官ヲ見ルト齒ノ浮ク様ナ氣ガスル「ネクタイ」ヤ帽子、靴「ワイシヤツ」「カーラー」「カフス」ノ卸マデ各人ノ好ミニヨルコトデハアラウガ先ズ上品デ調和ヲ得ルヲ以テ第一トスベキデアル
- 四、 靴下モ餘リケバケバシイノハ下品デアル服ト靴トニ調和スル色合ノモノヲ用ヒヨ縞ノ靴下等成ルベクハカヌ事、事業服ニ縞ノ靴下等以テノ外ダ
- 五、 一番目ニ立ツテ見エルノハ「カーラー」ニ「カフス」ノ汚レデアル注意セヨ又「カフス」ノ下カラシヤツノ出テ居ルノモ可笑イモノデアル

六、羅針艦橋ノ右舷階梯ハ副長以上ノ使用サルベキモノナリ艦橋ニ上ツタラ敬禮ヲ忘レルナ

七、陸上ニ於テ飲食スル時ハ必ラズ一流ノ所ニ入レ何處ノ軍港ニ於テモ士官ノ出入スル所ト下士官ノ出入スル所ハ確然タル區別ガアル若シ二流以下ノ處ニ出入シテ飲食又酒ノ上デ士官タルノ態度ヲ失シ體面ヲ汚ス様ナコトガアツタラ一般士官ノ體面ニ關スル重大ナ事ダ

八、クラスノ爲ニハ全力ヲ盡シ一致團結セヨ

九、汽車ハ二等ニ乗レ金錢ニ對シテハ恬淡ナレ節約ハ勿論ダガ吝嗇ニ陥ラヌ様注意肝心

一〇、常ニ慎獨ヲ「モットー」トシテ進ミ度キモノデアアル是非辨別ノ判斷ニ迷ヒ自分ヲ忘却セルカノ如キ振舞ハ吾人ノ與セザル所デアアル

青年將校ニ對スル訓示

- (一) 日本帝國軍人ノ目的ハ絶對位ヲ奉戴シ大御心ヲ體認シ獻身盡忠國家ヲ保護シ國權ヲ維持スルニアリ身ヲ立テ家ヲ起スガ如キハ至誠以テ其ノ目的ヲ貫徹スルヨリ來ル自然ノ善報ニシテ若シ誤テ此ノ善報ヲ得ルヲ以テ目的トセバ不忠義ニ陥ルコトアルベシ修身奉公ノ眼目ハ目的ト善報トヲ錯誤セサルニアリ
- (二) 皇國絶對無二ノ國體君ヲ離レテ國ナシ之ヲ「君國不二」ト云フ故ニ我國ノ道德忠ヲ基トス余之ヲ師ニ聽ク忠義ノ心内ニ熾ナレバ百害入ラズト諸子夫レ忠勇無雙ノ士タルコトヲ心掛ケヨ
- (三) 軍人ノ目的ハ勅諭ニ宜ハセ給フ所ヲ拳々服膺シテ實踐躬行シ身心ヲ鍛鍊シ學術ヲ練習シ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ事ニ當リ運用ノ自在ヲ得ルニ至リ始メテ達スル事ヲ得ベシ
- (四) 身心ヲ鍛鍊スルニハ常ニ艱難辛苦ヲ忌避セズ勇往邁進之ヲ征服セズンバ止マザルノ決心アルベシ我古英雄其ノ少時神ニ祈リテ七難八災ヲ降シ給ヘ以テ自身練磨ノ資料トセント云ヘリ鑑トスベシ
- (五) 如何ナル時處ニ於テモ常ニ精神不動ナルベシ鍛鍊茲ニ至ル常ニ力ヲ丹田ニ籠ムルヲ以テ階梯トス
- (六) 宏量大度精神爽快ノ將タルコトヲ心掛クベシ狭量ハ軍隊ノ一致ヲ破リ陰鬱ハ士氣ヲ沮喪セシム

- (七)(八)(九)(一〇)(一一)(一二)(一三)(一四)(一五)(一六)(一七)
- 忍耐ハ勇ノ一種ナリ之ヲ缺クモノハ大事ニ任スベカラズ  
 深謀遠慮アルト共ニ大膽果決ナルベシ謀慮ナキ決斷ハ軍ヲ破ル事アリ  
 命令ハ 大元帥陛下ノ命令ナリ絶對ノ服從ヲ要ス  
 上ヲ敬ヒ下ヲ愛シ常ニ和衷協同ヲ主トスベシ協同ハ一致ヲ生ジ一致ハ強固ヲ來ス軍隊ニ協同一致ナキハ  
 軍隊ニ非ズ烏合ノ衆ナリ  
 海軍ノ事物ハ連綿不斷ノ注意ヲ要ス海上ノ災厄多クハ小事ヲ慎マザルヨリ生ズ古語ニ曰ク油斷大敵ト  
 失敗ハ多ク得意ノ時ニ萌ズ東郷大將曰ク勝テ兜ノ緒ヲ締メヨ  
 業務ヲ學ブ先ヅ卑近ノ事ヨリ始メ廣クシテ淺薄ナランヨリハ狭クシテ深厚ナラン事ヲ務メ漸ヲ追ツテ積  
 聚擴大ヲ致スコトヲ心掛クベシ  
 業務ヲ遂行スル常ニ確實迅速靜肅ノ三件ヲ要旨トスベシ  
 惡ハ薄志弱行ト爲我一邊我儘勝手ニ生ズ克己自制ハ惡ニ遠カリ善ニ就クノ階梯ナリ  
 至誠ヲ基礎トシ克己自制ノ忠恕博愛トヲ材料トシ國家保護ノ大任ヲ擔當スル干城ヲ築造スベシ至誠ニ達  
 スル階梯ハ「忠直寡欲」ナリ  
 東郷大將ノ聯合艦隊ノ解散ニ際シ下シタル訓示中「惟フニ武人ノ一生ハ連綿不斷ノ戰爭ニシテ時ノ平戰  
 ニ依リ其ノ責務ニ輕重アルノ理ナシ事アレバ武力ヲ發揮シ事ナケレバ之ヲ修養シ終始一貫其ノ本分ヲ盡

- (六) スアランノミ」ト云ヒ又其ノ結末ニ「若シ夫レ常ニ聖諭ヲ奉體シテ孜々奮勵シ實力ノ滿ヲ持シテ放スベキノ時節ヲ待タバ庶幾クハ以テ永遠ニ護國ノ大任ヲ全フスルコトヲ得ン神明ハ唯平素鍛鍊ニ力メ戰ハズシテ既ニ勝テルモノニ勝利ノ榮冠ヲ授クルト同時ニ一勝ニ満足シテ治平ニ安ズル者ヨリ之ヲ褫フ」古人曰ク「勝テ兜ノ緒ヲ締メヨ」ト云ヘルハ眞ニ千古不磨ノ金言ニシテ吾人一般軍人ノ服膺スベキモノナリ諸子ノ軍ニアル常ニ公務ヲ先ニシ公務ノ爲ニ私情ヲ棄ツル事ヲ忘ルベカラズ此ノ事國家ノ公職ヲ奉ズル者ノ常道ニシテ之ヲ云フ必要ナキガ如シト雖熟ラ軍人ニシテ身ヲ誤リ不忠不義ニ陥リタルモノヲ見ルニ皆私情ヲ恣ニシ公務ヲ曠廢セルニ起因セザルハナシ故ニ殊更ニ之ヲ言明ス
- (五) 我が海軍ノ青年將校ガ公務ニ熱中スルノ餘リ往々下士卒ヲ遇スルニ暴力ヲ用ヒ自カラ刑罰ニ觸レタルモノアリ之レ血氣ニハヤリ軍規風紀ノ精神ヲ忘レテ形式ニ趨リ人ヲ服スルノ徳ナクシテ人ヲ責ムルニ酷ナルノ致ストコロニシテ特ニ武勇ノ好青年ガ陥リ易キ大弊ナリ諸子ガ斯ル過失ニ陥ルヲ未然ニ防ガンカ爲ニ豫メ之ヲ戒ム
- (四) 功ハ部下ニ讓リ部下ノ過ハ自ラ負フハ西郷南州翁ガ後進者ニ教ヘシ所ナリ之ヲ人ニ責メズ反テ之ヲ己ニ求ムルハ孫子金玉ノ言ナリ將校タルモノ此ノ心得ナカルベカラズ
- (三) 下級將校トシテ公務ヲ爲スニ當リ常ニ衆ニ先チ難事ト見バ眞先キ駈ケテ之ニ當リ決シテ人後ニ落チザル覺悟アルベシ

- (三) 上官公務ヲ以テ諸子ヲ招呼スル時ハ必ズ駈足ヲ以テ近キ敬禮命ヲ受ケ終ラバ一禮シ快ク「畏リマシタ」ノ一言ヲ以テ直ニ其ノ實行ニ着手スル如クナル可シ命ヲ上官ニ受ケテ遲疑逡巡スルガ如キハ命令ノ何物タルカラ解セザル愚劣者ノ行爲ナリ余ハ既往ニ於テ往々此ノ如キコトヲ目睹セシコトアリ故ニ爰ニ言及ス
- (三) 命令ヲ下シ若クハ之ヲ傳達スル場合ニハ必ズ其ノ遂行ヲ見届ケ爰ニ始メテ其ノ責任ヲ免レタルモノト心得フベシ
- (四) 軍艦ハ乗員ノ爲ニ名譽ノ城壁タルト同時ニ平常居住ノ家タリ故ニ寛ニ失シテ軍規風紀ノ弛廢ヲ來シ嚴ニ失シテ乗員ヲ苦メ一致ノ和諧ヲ破ル共ニ不可ナリ甲板掛將校タルモノ微妙ノ考慮ヲ要ス
- (五) 當直將校トシテ艦橋ニ在ルトキ當然注意スベキ事ノ外不慮ニ起リ易キ椿事ニ對シ之ニ應ズベキ手段ヲ心ニ講ジ置クベシ
- (六) 公務ニ従事スルトキハ當ニ 大元帥陛下之御前ニ之ヲ行フ覺悟ヲ以テセバ萬一モ過失ヲ生ズルコトナカルベシ之レ軍艦淺間乗艦タリシ後ニ於テ余ノ心ニ深刻セルトコロナリ
- (七) 常ニ慎獨自ラ欺カズ公明正大ノ人タルコトヲ心掛ク可シ特ニ人ノ蔭口ヲ言フハ陋ナリ
- (八) 他人ノ忠言ハ無理ナリト思フコトモ耳ヲ殺シ自己ノ修養ノ一助ニ資セント務ムルヲ可トス
- (九) 上官ノ叱責ニ逢フトキハ縱令誤謬若ハ無理ナリト思フコトアルモ一旦謹ミテ之ヲ受ケテ然後辯解スベ

(三)(言)

キ事アラバ徐ニ之ヲナスヲ可トス 臆患ヲ以テ之ヲ迎フルハ氣宇狭少ノ少人ノ行爲ナリ

常ニ心ヲ平靜ニ保ツコトヲ心掛クベシ之レ不慮ノ椿事ニ際會シテ惑ハズ又健康ヲ保ツノ基ナリ

毎日筋骨ヲ鍛鍊シ健康ニ留意スベシ 忠ヲ君國ニ盡サントルモノハ先ヅ其ノ身體健全ナラザルベカラズ我ガ慾ノ爲健康ヲ損害スルハ忠孝ノ道ニ背反スルモノナリ 色慾ヲ慎ミ金錢ノ慾ヲ離ルベシ 前者ハ性ヲ斷ツノ斧ト云フ 古言アリ 後者ハ高潔ノ士タルコトヲ防害ス 諸子ノ年齢ハ人生最危険ノ時期ナリ 血氣正ニ盛ニシテ 諸種ノ誘惑ニ陥リ易シ之ヲ免ルハ 常ニ忠勇無双ノ士タラント心掛クルニアリ

(三)

諸子ニシテ漸ク學術ニ長ジ 艦務ニ習熟スルノ頃己ノ力量ヲ自覺シ 先輩ノ思慮圓熟ナルカ却テ愚ト見ユル時來ルコトアルベシコレ即チ慢心ノ危機ニ臨ミタルナリ 此ノ時眞勇ヲ振ツテ此ノ慢心ヲ斷絶セズ其ノ増長ニ任ジ人ヲ侮リ自ラ輕ンズル時ハ技術學業共ニ退歩シ終ニハ陋劣ノ小人タルニ終ルベシ 余ハ俊秀青年將校ガ慢心シテ終ニ狂亂トナリタルモノアルヲ知ル、之ヲ免ルルニハ常ニ氣宇ヲ高遠ニシテ不平不満ニ遠ザカリ品性ヲ高潔ニシテ軍人ノ目的如何ト願ルニアリ

明治四十四年三月

第二艦隊司令官 八代 六郎



○部下統御上必須ノ要素

(一)  
智

青年將校ハ少クモ部下ニ命ズル作業ヲ遂行スルニ當リ彼等ヨリモ立派ニ遂行シ得ル能力智力アルヲ要ス、而シテ其ノ事項極メテ些事微賤ナルト否トヲ問ハズ下級者ハ上官ガ細事ヲモ苟クモセズ、又萬事ニ通曉シテ誤リナキヲ知ラバ如何ナル場合ニ於テモ之ニ信賴スルモノナリ、部下ノ信賴ハ統御ノ第一要素

ナリ

(二)  
仁

仁愛ハ上ノ下ニ對スルモノト下ノ上ニ對スルモノト別アリ然カモ兩者互ニ相離レテ成立スルモノニ非ラズ、上官ノ下級者ニ對スル慈愛ノ厚キニ從ヒテ下級者ガ上級者ヲ敬愛シ上官ガ爲ニ盡スノ心益々深キモノナリ、所謂己ノ欲スル所人ニ施スハ仁義ノ極致ニシテ人ハ之ヲ己ニ致ス、即チ部下ノ心服ヲ得ル所以ナリ

心服ハ統御ノ第二要素ナリ

(三) 勇

指揮者ノ勇氣ハ部下ヲシテ水火ヲモ辭セザラシムルモノナリ自ラ陣頭ニ立チテ進ムハ武人ノ本領ニシテ  
勇ナキ武人ハ部下ヲ統御シ得ルモノニアラズ若シ部下ノ面前ニテ勇氣ノ缺ケル行爲アルトキハ指揮者ト  
シテノ權威ヲ失墜ス

昔ヨリ勇將ノ下ニ弱卒ナシ武勇ハ武人ノ最モ貴フベキモノニシテ統帥ノ第三要素ナリ

(四) 誠實

部下ニ訓示令達スルニ常ニ其ノ爲シ得ル事ノミヲ以テセヨ、事態ヲ複雑ナラシメ或ハ無理ナル要求ヲナ  
スコト忽レ信賞必罰言責ヲ重ンジ部下ニ命ジタルコトハ直ニ實行セシメ部下ヨリ依頼サレタル事項ハ確  
實ニ之ヲ行フベシ果シ得ザル約束命令ハ之ヲナサザルヲ可トス

(五) 剛毅及堅實

正道ヲ踏ミテ動かザルコト巖石ノ如クナルヲ要スト雖モ過度ノ執拗ト頑固一點張ハ不可、過ヲ覺ラバ部  
下面前ニ於テ改メヨ、吾人ハ之ニヨリテ其威信ヲ高ムルコトアルモ失墜スルコトナシ必ズ又一度決心シ  
タル事ニ當リテハ終始一貫之ヲ行フヲ要ス

(六) 分別

凡ソ思慮分別ハ人間關係即チ部下ニ對シ猶潤滑油ノ如シ若シ下級者或ハ同僚ノ行爲ノ善惡ヲ檢シ之ニ對

(七)

スル惡ヲ矯メルニ當リテハ充分ノ思慮ヲ以テシ其ノ矯正ノ方法手段ヲ考慮スルヲ要ス  
公平無私

上級者ハ常ニ此ノ觀念ヲ維持セザルベカラザルハ勿論ナレドモ只自ラ顧ミ公平無私ナリト信ズルノミデ  
ハ充分ナラズ必ズヤ部下ニシテ自ラ上官ハ實ニ公平無私ナリト信ゼシメザルベカラズ、吾人ハ其ノ命令  
又ハ判斷理由若クハ其ノ來ル所ノ所以ヲ見ズ部下ノ腦裡ニ不公平ノ印象ヲ與フルハ士氣ヲ失墜セシメ軍  
紀ヲ破壊スル所以ナリ

○部下ニ對スル心得十則

(一)

部下ヲシテ帝國海軍々人トシテ同艦同分隊ニアリテ同ジク海軍ニ服務スル故ヲ以テ自己ノ部下トノ間ニ  
一種離ル、可カラザル連鎖アルヲ感ゼシムルヤ將又一種ノ隔アルガ如キ念ヲ起サシメザルヤ

(二)

諸子ハ自己ノ感化ト垂範ニヨリ部下ヲシテ覺エズ其ノ最善ノ努力ヲ致サシムル底ノ眞ノ統率者ナルヤ將  
又威壓ニヨリテ僅ニ部下ノ服從ヲ強制スル底ノ生キタル壓搾機ナルヤヲ考察セヨ

(三)

諸子ノ容姿整齊ナラズ軍人ノ態度完全ナラズンバ諸子先ヅ自ラ省ミテ自己ニ缺點ナキヤヲ考察セヨ  
諸子ハ部下ノ風紀良好ナラズンバ自ラ反省シテ歎息ヲ止メ、蹴起一番男ノ本領如此クナラザルベカラズ

(四)

ト例ヲ示セ

(五)

諸子ハ部下ナルモノヲ研究セヨ、而シテ之ト共ニ働キ且ツ之ヲ指導セヨ必ズ信賞必罰ノ實ヲ示セ、諸子ノ信ズル所ヲ斷行スベシト雖モ徹頭徹尾部下ヲ信用スベシ、信用セラレザル部下ハ即チ公僕ニシテ決シテ眞ノ部下ニアラザルコトヲ銘記スベシ

(六)

部下諸子ノ行爲ヲ見テ勤務忠實熱心ニシテ活潑有爲頼モシキ分隊附將校タルヲ感ゼシメツ、アリヤ否ヤ諸子ハ服裝、姿勢、態度ニ於テ注意ヲ缺キ或ハ正規外ノ服裝ヲナサザルヤ否ヤ

(七)

諸子ヲ目シテ自信力ナク唯上官タルノ威ヲ借リテ部下ヲ壓スルノ人物ト見ルコトナキヤ否ヤ

(八)

諸子ヲ目シテ「甘キ人」ニシテ人ヲ使フニ「呉レ賜ヘ」ヲ濫用シ小事故ニ對シテモ感情ヲ興奮セシムルノ人ト見ルナキヤ

(九)

或ハ諸子ヲ目シテ自信充滿、意志堅實而モ應對叮嚀ニシテ武人型トシテ制服ノ袖章ヨリモ其ノ内部ノ人格ノ徳ニヨリテ、實ニ良指揮官タルノ印象ヲ部下ニ注入シ得ル低ノ人物トナスヤ否ヤ

(一)

立派ナル海軍士官タルニハ余リ理窟ニ拘泥セザルヲ可トス吾人ハ理窟ニ深入リスルヨリモ實際的ノ常識

○雜訓 十則

ヲ發達セシムルコト職務遂行上最モ必要ナリ常識ノ發達セル人ハ理窟屋ニ比シ實用有爲ノ人多シ、艦内勤務ニ於テ特ニ然リ、余リニ形式ニ流ル、ハ融通ノキカヌ人ナリ、但シ學理又ハ理論ヲ全然排泄スルニハアラズ、學理及理論ヲ基礎トスル常識ハ必要ニシテ只々理論ノミニシテ實施ニ迂遠ナルモノハ不可ナリ、即チ理窟ニ因スル必要ナキモ理論ノ研究ハ必要ナリ

(二) 自負心ハ人トシテ或程度必要ナルモ余リニ自負心高キハ一般ニ上級者或ハ同僚ニ惡感ヲ與フルモノナリ自信アル自負ハ必要ナリ、自信ト自負トノ界ハ節儉ト吝嗇トノ如シ留意セザルベカラズ

(三) 人ノ助言ハ決シテ捨ツルベカラズ吾人ハ同時ニ助言ハ只助言ニシテ責任ナキコトヲ記憶セザルベカラズ故ニ助言ニシテ自己ノ考ヘト一致セザル時ハ必ズシモ之ヲ用ヒザルモ可ナリ、要ハ自己ノ過失ヲ未前ニ防ギ得ル助言ヲ得ンコト肝要ナリ

(四) 人ヲ輕信スルハ不可ナルモサリトテ譯モナク人ヲ不信任スルハ尙不可ナリ寧ロ部下ハ信賴シテ使フヲ可トス、重要ナル事ハ確カナル人物ナルコト承知ノ上ニ非ザレバ之ヲ託ス可カラズ

(五) 事ヲナスニ當リテ早合點スルベカラズ、縱令充分知リ抜キタルコトト雖モ一應考ヘテ之ヲ判斷スベシ特ニ艦隊運動ニ關スル信號ノ如キ然リ輕卒ニ淺薄ナル記憶ニヨリテ早合點ニテ判斷ヲ誤リタル結果ハ頗ル重大ナル事件ヲ惹起スルコトアリ

(六) 作業ヲ命ゼラレタル時ハ其ノ性質ノ如何ニ關セズ全力之ニ從事スルノ良習慣ヲ養フベシコレ實ニ其ノ成

(七) 功ヲ確實ニシ人ノ信用ヲ得ルノ道ナリ

吾人ハ耳目ノ及ブ限り大小ニ限ラズ注意ヲ怠ル可カラズ「ハンドレール」ノユルミ「ハリヤード」ノ弛ミニ就テモ常ニ注意シ當直員ヲ督勵シ常ニ緊張セシムベシ、將校ハ自己ノ行爲ニ依リテ部下ヲ感化シテ彼等ヲシテ怠慢不注意ヲ戒ムル覺悟アルヲ要ス

(八) 人ニ事業ヲ命ジ其ノ終リタル報告ヲ得タル時其ノ勞ヲ謝ス事ヲ忘ル可カラズ、此ノ場合ニ於テ「有難フ御苦勞」ノ一言ハ最モ廉ニシテ有効ナルモノナリ

(九) 下級者ノ仕事ヲ監督スル場合其ノ仕事ニ立入りテ干涉スルハ最モ不可ナリ然レドモ危険若ハ過ヲ見テ無言ニ過スハ更ニ不可ナリ、此ノ場合己ニ一日ノ長アレバ靜カニ注意ヲ與ヘテ過ヲ正シ危険ヲ避ケザルベカラズ、又要スル時ハ其ノ全作業ヲ自ラ指揮シ行フモ可ナリ然レ共其ノ時全責任モ同時ニ自己ノ肩上ニ移ルコトヲ忘ルベカラズ

(一〇) 困難アル事業ニ遭遇セルトキニ之ヲ解決處理スルニハ只其ノ筋道ニ付考察ヲナスノミナラズ同時ニ作業進行中ニ起ルベキ妨害困難ヲ豫知シテ之ニ對スル準備モ講ゼザル可カラズ、斯クノ如クスルハ其ノ結果ヲ最良ナラシムルニ最モ必要ナリ

(終)